

会 長 挨拶

安 川 第 五 郎

本日は恒例により、本会の定時総会を開会するにあたりみな様方のご出席をいただきまして、まことに感謝にたえない次第でございます。本会もずいぶんいろいろの困難に逢着しつつ、みな様方の一方ならぬご支援とご研鑽によりまして、だんだんその使命達成に近かづきつつあることはご同慶のいたりにたえないと同時に、各位のご努力、ご支援に対して深甚の感謝の意を表する次第であります。

いつも申し上げますように、次第に情勢が進歩と申しますか、だんだん科学的にすべてのことがなりつつあることは、今さら私から釈迦に説法のようなことを申し上げてはあいすみませんが、それもなかなか急激に科学化と申しますか、最近科学の進歩に対してはわれわれみたいな年をとった者は、こういう面はやっぱり若い人達に期待いたさなければなりません。私も若いときは科学を中心にした教養を受けた一人であり、しかも電気を専門として進んだ私ですが、最近の進歩した電気の応用や、電子工学の発達には仲々追付くのに骨が折れます。第一電子計算機なんていうものはてんでわれわれには理解がいかない。ことに此頃だんだんと電子計算機の応用が、単に計算だけでなく、情報管理やデータ処理などすべてのものに利用されるようになったものは誠に目覚しいものがあります。第一電子計算機が記憶するということがわれわれにはわからない。

これは科学の非常な革命と申しますか、進歩であって喜ばしいことではありますけれども、これに遅れんように産業人も各界の者も頭を切換えていくということは、なかなかみたいでないことじゃない。

そういうような情勢において、OR学会の使命が極めて重大であることは申すまでもないのです。自然この学会が世界を通して、わが国だけでなく、一般事業界に非常な大きな使命を荷なっておるといことは申すまでもないのです。

ただいま、日本におけるOR学会の逢着している問題は、会員の非常にご熱心なご研究に対しては、私みたいなわからずやが、かれこれ批判的なことを申し上げる必要もないし、また資格もないのですが、ただ何となしにどうにも財政的に経済的に恵まれておりません。これは一つは、私から見れば当然であるけれども、OR学会そのものが、一般経営者から見てもはなはだ難解で

ある。原理がなかなかむずかしい、近づきにくいというようなことのために、どうも会員が思うようにふえないとか、あるいはどうしても会社から多額のご寄付、賛成会費を徴集しなければならぬのが、思うようにはかどらんという点が支障になっておるのじゃないかと思うのです。しかしこのオペレーションズ・リサーチの理論をそう経営者に一々理解させるかということは、至難のことでありましょうが、ただオペレーションズ・リサーチそのものが、現代の経営の根本をなす非常に大きな使命をもっておるし、これによっていわゆる経営の科学化ということが達成される非常な肝要な一つの部門であるということを理解させることくらいは、私は方法によってはできると思う。ものそのものはわからなくても、これの重大性ということは、これは相当学識を持ち、また経営の衝にあたるくらいの人々の認識を得るということは、そう困難なことではないと思うのです。そういう方法によって大会社といわず、中小工場といわず、経営にあたる人にこのオペレーションズ・リサーチの重要なことと、将来性のあること、従ってOR学会が非常に進んでいかなければならないという必要性を、何とかして経営者陣に理解させ、認識させるということは、この学会の今後進むべき根本の問題じゃないかというような感じをいたしておるのであります。

そうかといって私が今、具体的な案を持っておるのではありませんが、学術の進歩に対するみな様方のご貢献に対しては、私からかれこれ申し上げる資格もないし、またその必要もないと思うのですが、今申し上げた経営上の点について、今後役員を初めとし、会員各位が一つ工夫をこらしていただいて、財政的にもう少し恵まれるようにして、今後のOR学会の隆盛をはかりたいと念じているような次第であります。

私はそういうような次第で、会長としてはなはだ資格が薄いかねてから思っているのですが、みな様方の一方ならぬご要望によりまして、曲りなりに会長の名前をけがしながら背負っている次第であります。私みたいなものが何か学会の今後のためにお役に立てば喜んでお務めするつもりであります。こういう近代的な進んだ学術基礎をもとにする学会の会長としては、年齢からいってもはなはだ不似合い、不適當な齢にも到達しておりますし、でき得る限り一つすみやかに、若手で十分この根本に理解のある方をお選び下さって、立派な会長を迎えられることを私は希望いたしておる次第であります。どうか今後みな様方の一層のご支援、ご鞭撻によって当会がいよいよその重大な使命を達成することができますことをお願いいたしまして、私の開会に先立つご挨拶に代えさせていただきます。